

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3 回生 梶谷優羽

この度、本学の国際助成金の助成を受け、2023.3.6~3.16 までの期間オーストラリア New South Wales 州のキングスクリフにある現地校 TAFE に通い、薬学語学研修を行いましたので、その内容についてご報告いたします。

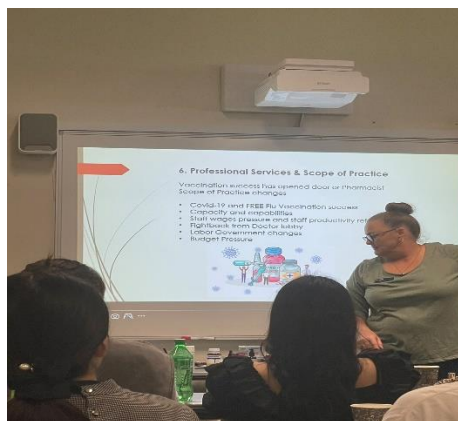
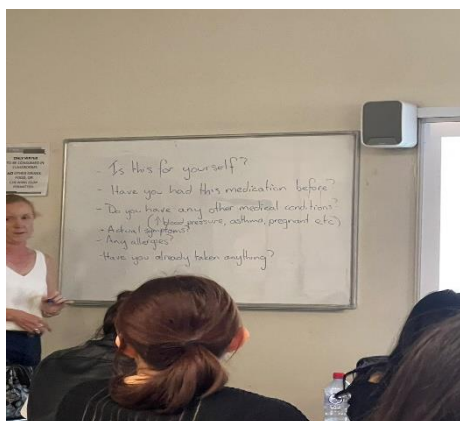
(1) English class

平日の午前中は、English class がありました。English class は 2 クラスに分かれており、個々の英語能力に見合った授業を受けることができました。私のクラスは英語が苦手な人でも楽しむことができるような授業でした。例えば、紅茶やコーヒーを淹れる手順を英語で学びそれに沿って抽出しました。私が中でも興味深かったのは、オーストラリアの海で見られる旗についてです。オーストラリアの海では危険を伴う可能性が高いため、5 種類の旗で危険度を示します。実際のビーチにも旗が刺さっていたので、学びを活かせました。先生方が優しく指導してくださったので、授業についていけないということはありませんでした。



(2) Pharmacy class

午後に 2 回 Pharmacy class があり、オーストラリアの薬局や日本との制度の違いを学びました。オーストラリアでは、PBS 制度というものがあり、政府が適格な患者のための薬の費用を補助する制度です。日本では、一部を除いて皆同じ割合を免除するので、個々の収入により薬の金額が異なるのは良い事だと思いました。また、薬のスケジュールについて学びました。オーストラリアには、投薬をスケジュールするための情報を州に提供する毒物基準 (SUSMP) があり、そのスケジュールは、薬を販売できる方法と場所を提示するものです。薬局プログラムでは、最適な医薬品使用、遵守、健康成果をサポートする革新的な IT ソリューションを利用しています。すべての利害関係者にオーダーメイドの利益を提供することでより多職種連携を可能にすることを学びました。



(3) Griffith University, School of Pharmacy and Pharmacology 訪問

Griffith University, School of Pharmacy and Pharmacology では、オーストラリアの文化や歴史についてのクイズ大会や、大学についてを学びました。この大学での学習方法として、可能な限り本物の実習をする、模擬患者との受け答え、自分自身の薬局を運営するなど様々な視点で薬学を学ぶことを大切にしているらしいです。実際に VR を用いた授業では、ウイルスを自分の意思で動かしたり拡大して中身を見る事ができる興味深いものでした。また、模擬実習としてお菓子を用いてお薬カレンダーをつくりました。患者さんが、弱い力で薬を取り出す事ができたり、飲み間違えを防ぐという誰にでも易しいものでした。



(4) Aboriginal Culture Awareness 訪問

オーストラリアの原住民であるアボリジニの方がいらっしゃる Aboriginal Culture Awareness に訪れました。そこでは、アボリジニの方が実際に魚を捕まえる際に用いる植物で作った竿を作ったり、木のみを食べてみたり、砂浜での的当てをしました。アボリジニの方とコミュニケーションをとることはなかなかない事なので、とてもいい機会でした。



(5) ホームステイについて

ホストファミリーは、小学生の子供が1人いる3人家族で、とても温かく迎え入れてくださいました。初めて出会った日は、夜遅くでしたが小学生の子が起きて、私たちに日本語で自己紹介してくれました。学校終わりに近くの観光地に、休日には、遊園地、ビーチやショッピングモールに連れて行ってくださりました。ご家族の方々が、私の拙い英語でも理解しようと頑張ってくださいたり、わかりやすい英語で伝えてくれるなどコミュニケーションをとれるようにしてくださったので、問題なく過ごすことができました。また、私自身も早く家族に溶け込む事ができるように家事の手伝いや相手の興味がありそうな話題を持ち出し積極的に会話することも大切だと学びました。

(6) おわりに

8日間という短い期間でしたが、私の人生においてとても濃い時間となりました。日本とオーストラリアの医療や文化の違い、英語力の大切さやホームステイでの日々など沢山の学びを得ることができました。国際交流基金の助成や多くの方々の支援により、得たものだと思います。この研修を通して、より社会に貢献できるような人間になりたいと思います。貴重な機会をいただき、心より感謝いたします。

